



初期診療・救急科

(救急医学コース)

○見学申込・問い合わせ先

電話 075-751-3126

メール keinishi@kuhp.kyoto-u.ac.jp

担当 西山 慶

後期研修

プログラムの目的

「救急医学」とは、学術的にも、社会的にも、きわめて幅広い意味を持つ言葉です。「救急医に求められること」も、国や地域どころか、医療機関ごとに異なっているのが現状です。日本における救急医療は、その社会的重要性の高さに比して非常に未成熟な分野であり、多種多様な人材が求められているとともに、一人ひとりの救急医の役割や社会に対する貢献度は大変に大きく、やりがいのある分野であるといえます。

このような背景のもと、私たちの初期診療・救急医学分野は、幅広い救急医学のニーズに応えられるよう、Emergency physician・ICU physician・Acute care surgeon といった 将来の日本の救急医療を担う人材の育成を主な目標としています。

初期診療・救急医学講座では、関連する救命救急センターと連携し、救急医療の基礎をトレーニングしながら3年間で救急科専門医が取得できる研修プログラムを実施しています。

プログラムの特徴

- ◇ 多くの高度先進医療を担う京都大学附属病院 ER と、ICU 研修を含めた救命救急センターとの提携による、3年間の包括的な教育システムです。
- ◇ プログラム終了時には救急専門医の取得が可能となります。
- ◇ 他の診療部門との collaboration により、集中治療・外傷外科を始め、Acute stroke care・麻酔・感染症・災害医療等の多彩な分野での研修・専門医取得が可能となっています
- ◇ 平成21年度より開設される脳卒中診療部およびStroke Unitの運営に参加しています

診療科目の体制

教授 1 名、講師 3 名、助教 3 名、医員・専門修練医 5 名

診療科の主な症例と症例数（またはベッド数）

救急搬入件数 2520台(H20年度), 2672台(H21年度)

救急外来診療 9231人(H20年度), 8981人(H21年度)

急性期病床 6床(救急科専用)・Stroke Unit 6床(脳卒中診療部の運営に参加)

その他、混合病床としてICU 10床・CCU 6床・HCU 6床

取得できる認定医・専門医

京都大学医学部附属病院は、救急専門医認定施設であり、また京滋地区で唯一の救急指導医認定施設です。

初期診療・救急医学講座では、関連する救命救急センターと連携し、救急医療の基礎をトレーニングしながら3年間で救急科専門医が取得できる研修プログラムを実施しています。

他科研修の可能性

集中治療部と連携したICU研修
脳卒中診療部と連携したSU研修
放射線診断科・ICTとの合同カンファレンス・研修
JATEC・PTLS・PALS・DMAT等のoff the job training
(その他相談に応じます)

留学の可能性

あり(相談に応じます)
海外学会への派遣、MGH・Harvard medical school等の国内外の医療機関・大学への見学も行っていきます

関連病院での研修

関連・協力病院一覧

国立病院機構京都医療センター 救命救急センター (<http://www.hosp.go.jp/~kyotolan/>)
京都第一赤十字病院 救命救急センター (<http://www.kyoto1-jrc.org/>)
京都第二赤十字病院 救命救急センター (<http://www.kyoto2.jrc.or.jp/>)
日本赤十字社和歌山医療センター 救命救急センター
(<http://www2.kankyo.ne.jp/nisseki-w/>)
大阪赤十字病院 救命救急センター (<http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>)
大津赤十字病院 救命救急センター (<http://www.otsu.jrc.or.jp/>)
神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター (<http://chuo.kcho.jp/>)
大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター
(<http://www.senri.saiseikai.or.jp/index.html>)
日本医科大学附属病院 高度救命救急センター (http://hosp.nms.ac.jp/category_g/er/)
洛和会音羽病院 (<http://www.rakuwa.or.jp/otowa/>)
兵庫県立尼崎病院 (<http://www.amahosp.amagasaki.hyogo.jp/>)
倉敷中央病院 (<http://www.kchnet.or.jp/>)
小倉記念病院 (<http://www.kokurakinen.or.jp/>)
松下記念病院 (<http://www.mhio.panasonic.co.jp/kinen/kinen.htm>)

後期研修修了後の進路

主として関連・協力病院での勤務

指導医からのコメント

京都大学 初期診療救急医学講座では、ER physician・救急集中治療医・外傷外科医など、救急医療で活躍できる多彩な人材を育成するべく、若い講座員を募集しています。

京都大学 初期診療救急医学講座は、従来の大学講座の概念を超えた、明るく、リベラルな講座を目指しています。

後期研修医からのコメント

1. 京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科 専門修練医 吉田 浩輔先生(平成20年卒)

はじめまして。10年4月1日より京都大学附属病院の初期診療・救急科で後期研修をさせていただきます、吉田浩輔と申します。出身地は福井県で、これまで高校・大学から初期研修の2年間に至るまでずっと福井県の保護下に育ってきました。今回ついに地元を飛び出すことになり、救急医としての研修先として選んだ病院が京都大学附属病院でした。大学病院を選んだ理由は、市中病院で2年間の研修を行ったため、早い時期に一度アカデミックな雰囲気

に触れて、その良い部分を吸収しておきたいと考えていたからです。そういう面では京都大学は全国でも有数のものであると思います。

救急部のスタッフの先生方は多彩なメンバーぞろいで、外傷系救急出身の先生、ER 専従で活躍してきた先生、各診療科で専門医を取得した後に救急部に転向してきた先生など様々です。出身大学も今までの経歴もまったく違うメンバー達で救急部が運営されています。朝のカンファレンスから始まって病棟業務、日中の救急外来と、とても忙しい毎日ですがなぜか笑いが絶えない楽しい雰囲気の中で過ごしています。

いま、僕自身はこの病院では救急部の一員として、様々な患者の初期診療にあたっています。受診患者は京都大学にかかりつけになっている方が多く、基礎疾患もこれまで見たことがないようなものをもった方が受診されることがあり、その都度とても勉強になります。また、一般的な救急疾患としても京大生を中心とした発熱や外傷など数多く経験できます。

今後は救急外来に加えて ICU での管理といった部分にも手を広げて研修していきたいと考えていますが、当院では既に SCU・HCU の設立（编者注：2010 年 10 月に合わせて計 12 床開設予定）、脳卒中診療部の立ち上げが予定されており、救急部もそれらに参加するための準備段階に入っています。そのような中で、後期研修最初のこの一年間を、総合内科的な知識を十分に勉強し、救急医に必要なとされる資格を取るための期間と考えて過ごしています。そして来年度には救命救急センターでの研修を行い、そこで得られたものをもって数年後に大学病院にフィードバックしていければと考えています。

そんなこんなで今日も救急外来での一日が終わっていきます。救急医療に興味がある方、救急+ α を重視してやってみたい方などなど、興味がある方はぜひ一緒に京大救急部を大きくしていきませんか？お待ちしております。

2. 京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科 専門修練医 井出 善教先生(平成 20 年卒)

はじめまして！兵庫県出身の井手と申します。大阪医科大学を卒業後、福井赤十字病院、京都大学付属病院にて研修後、縁がありまして京都大学初期診療・救急科にて後期研修をすることになりました。まだまだ慣れないことが多く、現在 ER にて奮闘中です。充実した毎日を送っております。

うちの特徴としては、

- ① ひとつひとつの症例をじっくりと見れること
- ② 各科の先生方のバックアップ体制が整っていること
- ③ 論文などを調べる環境が整っていること
- ④ 自由度が高く、救急以外の勉強もできること
- ⑤ 医局の雰囲気が明るいこと

などがあると思います。一つ一つの症例を大事に勉強したい人、救急+ α で勉強したい人、楽しく研修したい人にはぜひお勧めです。僕自身は ER+脳卒中を勉強していきたいと考えてここに決めました。

興味のある方はお気軽にご連絡ください。一緒に京都大学初期診療・救急科を盛り上げて行きましょう！